宗像

多くの参拝者で賑わう仮本殿前

平成二十六年

仮本殿で迎える正月

近年稀にみる好天に恵まれ、連日多くの参拝者で賑わう

仮本殿で迎える最初で最後の正月、近年稀に見る好天に恵まれ、また、本年は三箇日後の四日、五日に土曜、日曜が重なる長期の連休となり、多くの初詣参拝者で賑わった。

平成二十六年「甲午」、皇紀二千六百七十四年は、新しき年の初めを告げる大太鼓が境内に鳴り響くと同時に神門が開かれ、初詣の人々の波が怒涛の如く仮本殿に広がった。柏手を打ち、両手を合わせ、宗像大神に祈る参拝者の熱気が境内に満ち溢れた。

元旦午前零時には、恒例の九州旅客鉄道株式会社の新年一番祈願式会社の新年一番祈願

平成ノ大造営

時満ちて道ひらく

余滴

昨年、神宮では二十年に一度の式年遷宮が、出雲では六十年に一度の遷宮がそれぞれ斎行され、神社界にとっても節目の年であった。また東京国立博物館では「国宝大神社展」が開催され二十万人もの拝観者を迎え、好評を博し、今年、九州国立博物館でも一月一五日～三月九日まで開催され、全国の神社の宝物がかつてないスケールで展示されている▼神社神道は、稲作文化を中心に日本の美しい四季の変化など、すべて自然との関係の中で誕生したもので、日本人の繊細な感覚や人間的やさしさは、この自然を母体としている。神宮に代表される唯一神明造りの木目の美しさ、素朴さを尊ぶ白木造りも自然崇拝から形成されたものである▼本居宣長は日本の神について次のように述べている。すべて神というものは、古くからの書に書かれている天地の諸々の神たちを含めて、それを祭っている社に坐す御霊も神といい、また人はもちろんのこと、鳥獣木草のたぐい海山など、そのほか何でも、世の常ならず優れていて徳のある、かしこきものを神という（古事記伝）▼つまり、霊威をあらわすものであれば、自然の万物が神であるということである。日本の神社神道は教祖・教義・経典を持たない。あるがままに神の存在に触れ、感応する日本人固有の精神文化の姿と言える▼現在、九州国立博物館で開催中の「国宝大神社展」を御覧戴き日本古来から受継がれている神社神道の歴史の一端に触れて戴ければ幸いである。（杉）

神具・装束・授与品
井筒
装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401 フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23 フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技
総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406福岡県宗像市稲元4丁目1-20 電話(0940)32-2567

祭が斎行され、引き続き各団体参拝の新年祈願が執り行われた。

儀式殿においては家内安全や厄除け、祈願殿では交通安全祈願祭が次々に斎行され、仮本殿前、祈願殿内、福みくじの各社頭では、神職と巫女、巫女見習七十名が応対、神酒授与所ではノンアルコールの甘酒が振る舞われ、年明けの賑わいもピークに達した。

本殿授与所前

午前九時には辺津宮において元旦祭が、高向宮司以下神職の奉仕により斎行され、沖津宮と中津宮でも同様に執り行われ、三宮それぞれで皇室の弥栄、国民の安泰が祈念された。

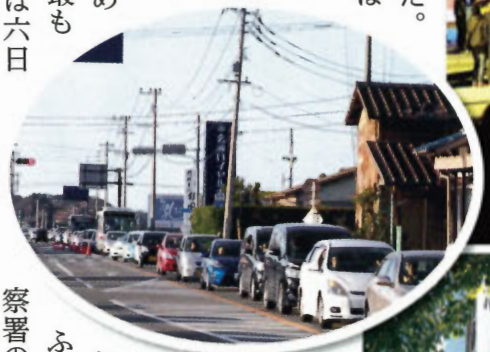
暖かい気温も重なり、午前八時過ぎ頃には例年より早く大駐車場も満車、参道はゆっくりとした長い列がつづき、各授与所の御社頭も縁起物や御神札・御守りを求める参拝者で埋め尽くされた。

本殿参拝の後、宗像大神降臨の地である「高宮祭場」、沖津宮の分霊を祀る「第二宮」、中津宮の分霊を祀る「第三宮」へ参拝する若者や女性の方も多く見受けられた。

四、五日は土・日曜が重なり、五日迄初詣参拝は分散化し、会社・団体の仕事始めの参拝が、最も集中したのは六日(月)であった。

十一日からの三連休は、スポーツ団体等の新年祈願や企業の成人祭、各地からの初詣バスツアーでの団体参拝が続き、連休中は概ね天候に恵まれ、境内は晴れ着姿の新成人も加わり華やいだ賑わいをみせた。特に十二日は、好天、大安が重なったためか、もう一度正月が来たような想定を超える賑わいとなった。

大晦日、年明けの開門を待つ列



正月警備には、本年も宗像市消防団・ふくろう部隊・宗像警察署の御協力により、大きな問題もなく滞り無く正月を終える事が出来た。

今年の正月は、仮本殿で迎える最初で最後の正月であったが、近年稀に見る、好天に恵まれ全般的に大きな崩れとはならず、例年にも増して多くの参拝者で大いに賑わいをみせた。

祈願殿前 大駐車場

高宮祭場

参拝者で込み合う太鼓橋

恒例の九州旅客鉄道「新年一番祈願」

年越しの大祓式・除夜祭

十二月三十一日午後三時、神門前にて年越しの大祓式、続いて仮本殿にて除夜祭が斎行された。

当大社では七月三十一日、十二月三十一日の年二回「大祓式」が行われているが、七月を災難消除、農作物の豊作を祈る「夏越の大祓式」、十二月を一年の罪・穢れを祓い清々しい気持ちで新年を迎えていただく「師走の大祓式」と呼んでいる。この「大祓式」は、神話の時代に伊邪那岐命が禊されたことに発するといわれ、奈良時代には大宝律令により正式な宮中の年中行事とされた国家的神事であり、太古より行われている祓いの神事である。現在では宮中・神宮を始め全国の神社で行われている。

大祓式

定刻、新年を迎える準備が整った神門前に参拝者が続々と詰めかけ、連日の厳しい寒さに比べると天候に恵まれ寒さが和らいだこともあり、新年を清々しい気持ちで迎えようという参列者の列が太鼓橋を越えるまで続いた。高向宮司以下神職が参進、まず葦津権宮司が大祓詞を奏上、続いて参列者各人に配られた「切麻」で祓い、続いて「祓物」に息吹を吹きかけて切り裂き、天・地・人形を「大麻」にて祓い清めた。

参列された小さな子供から年配の方まで、神事を終えると清々しい表情が溢れていた。

引き続き、本殿で除夜祭を斎行。今年一年いただいた宗像大神様の御加護に感謝し、皇室・国家の繁栄、世界の恒久平和、氏子崇敬者皆様方のご健勝を祈念し、平成二十五年の諸祭儀は全て終了した。

除夜祭

大島 中津宮の正月

宗像大社中津宮が鎮座する人口約七三〇人筑前大島は、年末年始になると島を離れ生活する人々が磯の香り沁み入る故郷大島へ帰り、成人式を始め、各同年講が集い正月中に成人祭、厄除けの御祈願を執り行うのが慣例となっている。

大晦日には社殿・境内の装飾、福みくじ授与所設営、夜間の初詣参拝者の為の参道電飾等が沖中両宮奉賛会・同翼賛会の方々の奉仕により設えられ、午後五時、神門前で年越大祓式、引き続き本殿にて除夜祭が斎行され、平成二十五年の祭儀は恙無く納められた。

午前零時、境内に年明けの号鼓が響き渡り神門が開かれると初詣参拝者は次々と神前へと進み、新年の祈りを捧げた。

還暦の同年者等

社頭では、正月の縁起物等が授与されると共に、恒例の「中津宮新春福みくじ授与所」が翼賛会の奉仕により開かれ、宗像農業協同組合大島支店よりは特別協賛を賜り、新年の福を授かろうと多くの参拝者が詰め寄せた。又、境内では大島巻網船団の宮地丸組・春日丸水産が寒鰤を、松田澄江氏からは野菜のご芳志を頂き『開運大鰤大根鍋』が振舞われ、大島ならではの冬の味覚が参拝者・帰省者を温かく迎えた。

午前七時、神前に島内外から献上された御初穂や海の幸・野の幸等がお供えされ、元旦祭を斎行、皇室の弥栄と国家安泰、国民の幸福が祈念された。

二日、全国に先駆け成人祭が執り行われる。午前十一時新成人六名と保護者・恩師の他コミュニティー関係者等多くの方が中津宮へ駆けつけ、島を挙げて新成人を温かく祝福した。また、それを前後して、三十三才、四十二才、四十四才の厄除・晴厄の同年講祈願祭も次々と斎行され、境内では旧友と交歓する人々で大いに賑わった。

三日、午前十一時より元始祭併宗像漁協大島支所の大漁祈願祭が高向宮司奉仕のもと斎行され、国の悠遠の古、元始を偲び、併せて本年初頭の海上安全、漁業繁栄が祈念された。

又、十二日には今年還暦を迎える五十三名の還暦奉賽祈願祭が盛大に斎行され、祭典後には一ノ鳥居前にてパレード用車両のお祓いをし、島内各所を廻りながらお酒が振舞われ、還暦を祝福すると共に大いに賑わいをみせた。

中津宮正月祭諸祭典斎行にあたり、多大なるご協力・ご協賛を頂きました氏子・崇敬者各位には衷心より御礼申し上げます。

新成人

(有)箱崎塗装工業所 神鏡三枚を調製奉仕

現在修復中の総社・辺津宮本殿の神鏡三枚を、昨年七月の皇太子殿下御参拝時に神門扉菊花紋調製の奉仕をいただいた、㈲箱崎塗装工業所に今回も依頼し、美しく調製された。

約四十年経過し、劣化が見受けられた神鏡は、高度な技術を駆使し真心込めた御奉仕により、新調したかのような美しい輝きを取り戻し、今年十二月、修復を終えた辺津宮本殿内陣に奉安される。

日本の伝統技術を今に伝える箱崎塗装工業所様の今後益々の御発展を御祈り申し上げます。

献米奉告祭斎行

浦安舞奉奏

新春の一月十三日午前十一時、氏子会総代・評議員多数の御参列の下、献米奉告祭が斎行され、氏子の皆様から寄せられた新穀を御神前に献上し、昨年秋の収穫を感謝すると共に、今年の五穀豊穣、無病息災を祈った。

祭典では、氏子を代表し花田利和氏が奉幣使として御奉仕された。前日から当大社に斎泊、精進潔斎の上、斎服を着装して祭典に臨まれ、宗像大神の大前で奉幣詞を奏上、見事に大役を果たされた。

祭典終了後には、氏子会役員を長年お勤めいただいた方（十年以上）の表彰式が行われ、本年は四名の方に感謝状と記念品が贈呈され、参列した氏子会関係者から温かい祝福をうけた。

氏子奉幣使 花田 利和氏

その後、清明殿を会場に「鏡開き」が行われ、直会として雑煮・ぜんざいをいただき、新しい一年を清々しく過ごす事が出来ると当大社を後にした。

尚、ご奉納いただいた献米は、日々の日供祭を始め、諸祭典の神饌としてお供えし、皆様方の安全と繁栄をご祈念致しております事をご報告致し、心より御礼申し上げます。

献米奉告祭氏子奉幣使
花田 利和氏（宗像市池野）

宗像大社氏子会 永年勤続者表彰

氏子会副会長
松井 善徳氏（宗像市吉田）
山本 清氏（福津市若木台）

氏子会評議員
永野 智治氏（宗像市宮田）
宮本 昭男氏（宗像市大島）

宗像市 新市制10周年記念

「むなかたの次世代リーダー養成塾」

宗像市内の中学生30名が宗像大社を参拝

一月十一日から三日間、宗像市内の中学生三十人を対象にした、初めての「次世代リーダー養成塾」が同市のグローバルアリーナで行われ、中日の十二日、当大社を参拝し、その後、境内や神宝館を拝観、由緒をはじめ郷土宗像の歴史を学んだ。

神宝館前

「宗像の魅力を発信するお弁当のデザイン」をテーマに、九州新幹線や豪華寝台列車「ななつ星」のデザインを手掛けた水戸岡鋭治氏ら専門家四人の講義を受け、また、当大社などを訪れ地域の歴史、特性を二泊三日の日程で勉強し、最終日には自分たちで考えたお弁当について発表を行った。

この子供たちが、郷土に誇りを持ち、日本や世界の舞台で活躍することを期待したい。

神職の説明を熱心に聞く中学生

御造営奉賛者御芳名

（平成二十五年四～七月）（順不同・敬称略）

十万円

宗像市　井上　太三
〃　吉武　弘道

五万円

桜川市　磯部　恵子

一万八千円

松山市　野村　興慈

一万五千円

相模原市　深江　成子

一万円

宇部市　藤本　達子
大木町　田中　茂敏
大津町　池浦　秀隆
岡垣町　神谷　巖
岡山市　土岐　真弘
金沢市　㈱トキラボ　梶谷　晋弘
〃　㈱芝寿し　藤田　賢次
北九州市　藤田戦略研究会　末富　孝典
芦田木村国際特許事務所
下関市　西本　妙富
世田谷区　神霊研究会　本田　健
総社市　萩野　茂雄
ときがわ町　神明神社　野口　本和
常滑市　奥貫　健
新潟市　佐藤　秀春
福岡市　大津留榮佐久
〃　杷野　光貴・昭子
〃　山口　浩
芦田木村国際特許事務所
福岡市　脇山喜美子
福津市　田中　稔
松山市　野村　興慈
みやま市　永江　秀澄
〃　大法寺
宗像市　伊藤　鉞夫
〃　坂口嘉一郎
〃　坪根　重
〃　本田理一郎

五千円

伊賀市　黒田健太朗
〃　長谷川佳代
〃　長谷川恵子
〃　福島　義治
〃　森　裕章
〃　松山建築板金
茨木市　占部　博
いわき市　吉田　秀幸
（株）メディエンス
宇部市　大本　和則
大田市　伊藤　悟
〃　伊藤　由美
大牟田市　猿渡るみこ
春日市　石崎真理子
葛飾区　橋本奈緒美
シーズンズ　らいみんぐ
北九州市　大庭　純
〃　大庭　里実
北区　鈴木みゆき
北杜市　石井　典子
熊本市　坂根　竜美
江東区　占部　博
神戸市　黒田　関男
御殿場市　荒木　良仁
静岡市　浅川　比卓
〃　浅川　卓巳
品川区　畠山　和幸
下関市　中村　利臣
下関市　宮崎　正信
いちのみや薬局
須恵町　笠原　克彦
杉並区　白井まゆみ
ナチュラルアース
すさみ町　河内　昭男
河内水産
世田谷区　大野　岩男
善通寺町　坂口　大樹
太宰府市　井上　禮一
苫小牧市　田元　勝
那珂川町　甫守　友紀
中野区　青野　光容
（有）ペガサス
長久手市　高見　悟郎
白山市　北川　善昭
（株）イーピーエム・グループ
福岡市　髙牟禮久雄
〃　矢永　茄津
（医）Yanaga Clinic
福津市　佐賀　愛
防府市　宮崎　正信
（有）新くわのやま薬局
本庄市　藤原　広恵
宗像市　宮本　昭男
目黒区　河本　則子
〃　滝口　政巳
行橋市　境田　隆二・澪子
（医）治症会
横浜市　八尾　英輝

四千円

一宮市　伊藤　嘉浩

三千円

尼崎市　吉村　巧
諫早市　森　光治
川崎市　瀧澤　和史
熊本市　髙山　明士
筑紫野市　佐々木吾衣
広島市　石田　佳子
福岡市　大窪　浩章
〃　神田　修二
〃　髙木　秀樹
（株）九州住宅リフォーム
〃　田中　良典
（有）共伸マテリアル
〃　山下　聖子
宗像市　青井　順一
青井通信（株）

二千円

藍住町　新開　智子
明石市　野水　和子
〃　日野　智子
朝倉市　矢野　宙之
芦屋町　江頭　幸
尼崎市　吉村　巧
荒川区　岸　孝二
（株）キシケン
飯塚市　野見山　晃
〃　原田有希子
宇佐市　立石　キエ
大田区　玉木れい子
〃　松本　実
大牟田市　前田　真吾
大村市　徳留　健三
櫃原市　中山　全広
鹿島市　木下　義昭
春日市　中村　正文
門真市　横岡　真行
嘉麻市　神田美智恵
川崎市　宮川　晴代
〃　吉田　奨
香春町　伺井　美枝
北九州市　岩上　晴一
〃　園川禮次郎
〃　大庭千鶴子
〃　郷守　真弓
〃　坂根　颯祐
〃　平　道生
〃　竹内勢津子
〃　中野　慶司
〃　天野　剛
基山町　末沢美智子
京都市　浜田　充子
〃　大橋　工
熊本市　坂根　竜美
〃　半田　佳子
久留米市　江頭　鏡子
江東区　秋田　順子
神戸市　上村　忠明
〃　吉田　悦子
〃　長谷川　崇
小平市　加藤　義幸
佐世保市　加藤二三代
〃　小林美由紀
静岡市　柴部　尚志
渋谷区　中山　朋子
志免町　坂元　信夫
下関市　髙木　義輔
新宮町　今泉有美子
須恵町　松尾　義勝
〃　藤田　健一
杉並区　吉田　広美
仙北市　江上　尚美
筑紫野市　満嶋　伸隆
時津町　江崎　洋子
長崎市　床波　智彦
中津市　富田組
中間市　大橋由美子
名古屋市　髙木　芳暢
〃　名古屋市　立松　康之
西宮市　加地　友子
直方市　石松　謙治
廿日市市　新藤　幸夫
羽曳野市　南阪本素美
東大阪市　福川　貴雄
〃　角川　隆美
〃　深山由美子
〃　前田　千良
福岡市　東　誠
〃　岩本千代美
リンパケアスマイル
〃　木村　まり
〃　小早川文枝
〃　杷野　昭子
〃　深川美智子
〃　船越　法子
〃　森山　昇
〃　山下　陽子
〃　吉澤　忠雄
文京区　行武　理恵
松戸市　番場　愛子
〃　番場　常夫
水巻町　平　クララ
アトリエクララ
〃　平　紘子
アトリエクララ
三鷹市　佐々木隆子
宮崎市　稲元　雅彦
宗像市　足立　保子
〃　久能はる子
〃　塩塚　隆宏
〃　正生　英彦
〃　中野トミノ
〃　長谷川　章
〃　山口　和子

（続）海の寄物

285

いしいただし

前号で芦屋の田代恒雄氏の「自宅の神社に」と書いたが、「自宅近くの」が抜けていたので訂正する。この神社は岩津神社といい、鳥居の額には岩津宮とある。祭神は市杵嶋姫である。芦屋町誌によれば、神社の創建は延享二年（一七四五）七月。寛保二年（一七四二）一月の芦屋大火の折、吉永清三郎は羅災者救済のため藩より銀一二〇両を借用。この弁済のため沖津宮に豊漁を祈願し、効あって三年で借金返済ができた。この感謝のため岩津神社をつくったとある。岩津神社は普段は施錠してあるが、氏子総代から開けてもらった。拝殿中央に日清戦争の大絵馬が揚げられているが、残念なことに雨漏りで色彩が流れたり剥落が酷い。一枚でなく縦に八枚の板を並べてつないでいるがそれが外れているけれども額の中に納まっている。写真を撮ったが写りも悪かった。その大絵馬の上に、沖津島参拝絵馬が掲げられている。右に「明治四十四年八月二日参拝記念」とあり左には「瀛津宮参拝」とある。絵馬研究家の楠本正氏に聞いたら沖ノ島を描いた絵馬は少ないそうである。沖ノ島のことは口外してはならないというタブーがあり、絵馬が少ない一因かも知れないし島に行く人も少ない。

岩津神社の拝殿

絵馬は中央に三峰を描き、二ノ岳が一番高く描かれ、剥落しているが沖津宮は見えない。一ノ岳の下が船着き場、鳥居等が見える。下には小屋島は見えるが、他の岩礁のところが丁度破れて見えない。絵馬の右下のところには参拝の船であろうか、一本ずつ、船の前後に、長い竿が立てられ、日の丸があげられている。船の帆柱はおろされ、斜めに置かれている。

沖ノ島を描いたものは、宗像神社史（上巻）に図版がある。明治八年のもので「福岡縣筑前國、第四大區宗像郡沖津嶋鎮坐国幣中社宗像神社沖津宮全圖」である。南方の海濱から島の姿を鳥瞰として描かれ一ノ嶽（岳）、二ノ嶽、三ノ嶽が背後に聳え立ち前面に船着きの入江、入江のすぐ左岸に社務所がある。沖津宮に至る道があり小建物が並ぶ、海上には小屋島や天狗岩等が描かれているが名称は記されていない。

この絵をもとにして明治三十一年刊の「大日本名所図録（福岡県の部）」が描かれたようで、島の姿も共通している。その中に「官幣中社宗像神社瀛津宮大島村字沖津島鎮坐」の銅版画がある。一の岳から順に三ノ岳と低く描かれ、一の岳の中央部分に沖津宮（本社）を、荒舟神社、鳥居、建物群、下の船着場も描かれ、海上には小屋島、アラフネ岩や三角岩、天狗岩、カニエダ二本の岩が海に突き出している。小屋島を除いて他の岩礁部はいろいろの名で呼ばれていたのであろう。銅版画には藤原輔相の和歌もそえられている。

瀛津島の絵馬

参拝船

岩崎神社の絵馬は前記の二枚の絵より島は少しずんぐりしている。瀛津宮とあるのは、神社史によれば、沖津宮の拝殿にこの額が掛けられていたようである。この額は嘉永七年（一八五四）鈴木重胤の奉納で、右大臣藤原（花山院）家厚の筆に成る。絵馬師が「名所図絵」から島の姿を、また、図絵の瀛津宮をとったか、参拝者が実際にその額を見たのを書いたかは分らない。

九州国立博物館

特別展
国宝大神社展

◆期間 平成26年1月15日～3月9日

第六十二回神宮式年遷宮を奉祝する事業として神社本庁が特別協力し、一月十五日より九州国立博物館で「国宝大神社展」が開催されております。全国各地の神社の協力のもと、国宝や文化財に指定された神宝が数多く出展されます。当大社からも沖ノ島神宝十三件を貸出しております。

第六三〇回 宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日〆切

福津市　星ヶ丘　佐々木和彦
3Dの青き海底数匹の魚影が砂に口づけをせり
詩情のあるうつくしい歌。二句には助詞を付け〈～で〉としたい。

福津市　若木台　山崎　公俊
水のうへに浮かびたるごと大島が見ゆる日のあり姫のおるすか
大島が海面を浮かび漂うように見えるのは姫神が留守だからかと、ファンタジーのような発想が楽しい。

うきは市　浮羽町　向　則正
待宵月高くのぼれる石垣島三線にのり島唄きこゆ
視覚と聴覚で楽しめる歌。初句が辞書にある〈宵月の〉ならば時間が分かり雰囲気が出る。

北九州市　八幡西区　豊田　光子
天かける子の操縦や冬晴れの空に一筋曳く飛行機雲
息子さんが操縦する飛行機を下から見ている作者。初句に誇りに思う親心がこもる。

宗像市　多　禮　早川　祥三
ぬくもりを寄せ合う浜の潮騒に西にきらめき朝風の松
ロマンティックな歌だが分かり難いのが惜しい。内容を絞り〈君と身を寄せて朝の浜に見る潮流西にきらめきゆくを〉としてみた。

福津市　中　央　池浦千鶴子
もみじ散る季節となりて今日もまたまち子巻きして狭庭辺を掃く
真知子巻に季節感があり効果的。三句を〈今朝も〉などとすると更に冷感と光が出る。

宗像市　日の里　大和美由紀
「ユキちゃん」オランウータンに声かける園児に交じりわれも名を呼ぶ
先月に続くオランウータンの歌。園児と一緒に人気者ユキちゃんを呼ぶ作者が楽しい。

福津市　若木台　野間　精一
九十一歳の山本静子さんも交りゐて宗像歌会今日は十人
九十一歳の方も参加される歌会。結句に出席者が多いことを喜ぶ感じが表れている。

宗像市　池田　森　龍子
街路樹の己れ誇れる葉を落とし抵抗少なき姿に立てり
葉を落とした街路樹を抵抗少なき姿と感じた作者も清々しい。木の名が入ると良いのだが。

宗像市　土　穴　山本　静子
もみじかげ皇帝ダリヤの花ゆるる庭眺めつつ芋粥すする
魅力的な歌材が多いが、初句は控えめに〈木々のかげ〉としては。美しい庭を見ながら食べる芋粥は美味しそうだ。

宗像市　田　久　巻　桔梗
電線の鳩は知らじな橋も田もヒトのつくりしうつくしき景
着想が新鮮、鳩も親しみがあり良い。二句の知らじなは語感が古いので現代的に。

宗像市　日の里　石松　弘次
体温の冷えゆく雀の雛を掌に我が命終の思いにひたる
雀の雛の死に自分のその時を思う作者。四・結句は抑え〈～を思いて居たり〉くらいに。

◆選者詠

冬の水とろり重たき感じにて白水池はひすいの緑
カワセミを漢字で翡翠と表記せし過去世のひとの字遊びたのし

第六〇三回 俳句作品集

宗像市　多　禮　早川　祥三
新藁のかほりしで振る大鳥居

宗像市　武　丸　白土　凌一
又来たる冬の寒さや皆ふるえ

宗像市　日の里　石松　弘次
正月や春を寿ぐ年始め

編集後記

昨年七月に当大社を参拝された、百田尚樹氏原作の映画『永遠の0』を拝見致しました。戦争を知らない自分と同世代の方々も多く見られました。戦争で亡くなった人、生き残った人の苦しみが描写され、涙が込み上げてきました▼安倍総理の靖国神社参拝は、マスコミが大々的に報じ、諸説論じていますが、「…二度と再び戦争の惨禍によって、人々の苦しむことのない時代をつくるとの決意を込めて、不戦の誓いをいたしました」との総理のコメントが記憶に残りました▼初詣で手を合わせる多くの方々は、家族の幸せや国の平和を祈ったことでしょう。この祈りの本質は戦前も、戦後も、今も変わらないのではないでしょうか▼日本人の多くの方にマスコミの伝えない本質をご覧いただき、今ある平和はどのように築かれたのか、考えていただきたいと思った、そんな新年でした。（鈴）

2月祭事暦

1・15日　月次祭
午前10時～　高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭（1日）
午前11時～　総社祭
浦安舞奉奏（1日）
豊栄舞奉奏（15日）

3日　節分祭
午前11時～　於＝本殿
豆打ち式
午前11時30分～
於＝斎館前

11日　建国祭　午前11時～

発行所
宗像大社社務所・宗像会
住所　〒八一一―三五〇五
福岡県宗像市田島一三三一
電話　（〇九四〇）六二―一三一一（代）
発行人　葦津幹之
編集人　大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷　ゼネラルアサヒ
毎月1日発行
定価1年送料共 1,000円